

今回は 夏休みに行われた関ジモト大学 の報告（その2）です。

◇ オンラインセミナー「関ジモト大学2021 online」

今年度は、昨年度に引き続きオンラインセミナーを実施しました。関市で活躍する「せき・まちづくりNPOぶうめらん」が主催する「関ジモト大学online」の場をお借りして、関市内の45企業と各企業のSDGsに関わる取り組みについての話を聞き、生徒が意見交換を行いました。

◇ 企業紹介

【義春刃物株式会社】

彫刻刀、はさみ、切出ナイフなどの文具や教材用刃物の製造販売を主な事業とし、業界では高いシェアを獲得しています。また、肉の筋切器のようなキッチン用品や、シャインカービングという新しいアート商品の製造も行っています。



【HP】 <http://yoshiharu-h.xsrv.jp/wordpress/>

SDGs	取組中					今後の目標		
------	-----	---	---	---	---	-------	---	---

◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

・彫刻刀のシェアが7割だというのは驚きました。僕の彫刻刀もそこで作られていたので、周りに支えられていることを実感しました。また、跡継ぎの不足に悩んでいたようだったので、そんなに有名な会社でもそういう問題があるということにも驚きました。

・コロナ禍や少子高齢化によって刃物の需要が少なくなっていってしまう状況を、刃物作りの技術を他のことに活かして伝統を守ろうという努力をしているのがすごいと思いました。

・義春刃物さんがSDGsをどのように取り入れているのかがよくわかりました。原料を変えるだけでなく刃物の価格の維持を質の高い教育につなげることなどもSDGsに関わることだと知って、自分が思っていたよりも身近なものなのだと感じました。また、日本の刃物業界が抱えている技術などの課題やその解決に向けての取り組みについても知ることができました。

・彫刻刀を日本で一番作っていて、作る技術は他にはない。現在は、安い刃物やコピー製品、後継者不足で大変になっている。彫刻刀を作る技術を使って新しい商品を作っていることが分かった。全国の小学四年生の7割が義春刃物さんの彫刻刀を使っていることに驚きま

した。職人一人一人の腕の良さが義春刃物さんの強みで、これまで職人がやっていた作業を自動化することで、職人に新しい商品に携わって頂くという話を聞いて、刃物作りという伝統ある仕事場でも、新たな挑戦を続けようとする姿勢があることを学びました。今後の問題点は沢山あって、これからの道はより険しいものになっていくと思うけど、何をすべきかを社員さんみんなが本気で考え、誇りを持って自分の仕事に取り組む姿が凄いいと思いました。

・義春刃物さんは経済的に困りの方でも商品を手にとってもらえるようにと価格を下げるということをしていたりするという話が印象に残りました。色んな人の立場になり考え、商品を作っていくということはどのような職業でも大切になることだと思います。僕はまだ高校生ですが、まずは身の回りの人と接する際に相手の立場になってから考え行動することを大切にしていきたいです。

・刃物を製作するやりがいは自分たちの思いがこもったものがお客さんに届いて喜んでもらった時だそう。それを叶えられるように本物の刃物、どこの会社より切れるものを製作していくことを誇りにしていると聞いて熱意に感動した。SDGs への取り組みとしては、7割以上のシェアを誇る彫刻刀を学校に美術の気持ちを育てて欲しいという気持ちを込めて30年以上値段を変えておらず、刃物を製作する時に出るプラスチックを火力発電に、余った鉄を再利用にと無駄ができる限りなくなるように努力していらした。

・他の国や企業によるコピー製品の影響により厳しいことになっても、新しいことに挑戦し続けていくのが素晴らしいと思った。様々なSDGsの取り組みをしているが、誰にでも買って貰えるよう価格を下げるのはすごいと思ったし、ありがたいと思った。太陽光発電で環境にも気を使っていて、様々な取り組みをしているのがすごいと思った。



・義春刃物さんが作っている彫刻刀にある丸刀や三角刀は作るのがとても難しい刃物で、持ち手のデザインが違ってても、刃先が義春刃物さんの刃を使っていることが多いと聞いて驚きました。今日本で少子高齢化が進んでいて、関の刃物も後継者が少なく、危機に陥っていることがとても大変なことで、また、彫刻刀の技術をニクサスやシャインカービングなど違う分野に応用して、新しい開発に取り組んでいることがわかりました。

・中学生の頃、当たり前前に学校で使っていた彫刻刀やハサミなどはもちろん、肉の筋切り機などといった細かい所まで手が届く刃物製品を開発されていることがわかった。シャインカービングという、新しいアートを通じて、関市の発展を図ろうとされていた。実際に僕の弟たちがシャインカービングで作品を制作していたので、自分も制作してみたいと興味が湧いた。

・義春刃物さんの彫刻刀は、日本の学童用彫刻刀の7割を占めている。しかし、安価な刃物

やコピー製品が出回り、後継者の不足も重なって、関の刃物産業は危機に瀕している。少子化により、主な客である児童の数も減っている。そこで、彫刻刀の技術を応用し、彫刻刀の新しい可能性を生み出すことに取り組んでいる。肉の筋切り器やステンドアートなどが商品化されている。SDGsの取り組みとしては、生産過程で出た不良、余った素材は再利用し発電の燃料に使う。不良製品は訳あり製品として売り、無償提供する。今は紙でできた柄の製造に取り組んでいる。

・義春刃物さんは彫刻刀を製造しているそうで、彫刻刀を刃物だと意識したことはなかったので驚きました。しかも流通している彫刻刀の約7割が義春刃物さんの彫刻刀だとおっしゃっていて、とてもびっくりしたし、関にそんなにすごい企業があるのだと勝手に誇らしくなりました。しかしコピー商品や少子化などの問題で厳しい状況だそうです。そんな中でも仲間と議論しながら次々に商品を開発していてすごいと思ったし、そうやって自分の意見を素直に交流できる場がある良い企業だなと思いました。

・義春刃物さんは彫刻刀の刃が全国シェア7割だということに驚きました。僕も小学生の時に使っていた彫刻刀が義春刃物さんのところで作られていたので、知らないところで周りに支えられているのだと実感しました。しかし「少子高齢化」に悩んでいるそうです。子供たちが減ったことで彫刻刀の売れ行きが下がっているということに納得して、驚きました。その改善策として、「肉の筋を切る機械」を作ったところ売れ行きが昨年まで戻り始めたというのを聞いて、開発の成功ももちろん必要だけれど、そういうアイデアを考えるということも必要だということも学びました。



・義春刃物では主に彫刻刀を製造していますが、百均が登場したことによって安く刃物を手に入れることができ、従来の刃物の売上げが悪くなっています。そこで彫刻刀の技術を活かして、肉を切る刃物、ニクサスを製造したことによって売上げをカバーしたらしいです。僕は彫刻刀の技術を工夫して食品の方に目をつけて新しいものを作ることがすごいなと思いました。

・私は今まで全くと言って良いくらい彫刻刀について知りませんでしたしかし今回の講座によってデザインに想いが込められているということがよく分かりました。その中でも特に良いと思ったのはニクサスというトンカツ専用の刃物です私は料理も好きだし肉料理もよく食べるので非常に良いものだなと思いました。こんな高品質で切ったお肉を食べてみたいと感じました関市の伝統を守っていきたいです。

・刃物にも安い製品が出回ったりコピー製品が登場したりしてなかなか思うようにいなくなっているのにそれでも品質で勝負してこの会社を守っていることはすごいと思いました。

今コロナで学校の彫刻刀が売れないためなんとかしようとして新たな製品を生んでいるのがすごいと思ったし、確かな技術力によって義春さんしか生み出せないものも作れていてすごいと思いました。これからも新たなユニークな商品を作って欲しいです。